



マイナンバー制度

皆様お元気ですか！

秋になり、スポーツに文化活動に最高の季節となりました。倒れても立ち上がり前へ進むラグビー日本代表の活躍に感動した方も多いいと思います。2019年ラグビーW杯は決勝戦会場が横浜に決まりました。日本代表には決勝戦まで勝ち進み、横浜で勇姿を見せていただきたいと思ひます。

さて、マイナンバー制度については、政府のホームページや広報ヨコハマでも既にご存知のことと思いますが、マイナンバーは社会保障や税、災害対策分野から利用がスタートし、今後は医療や金融などで徐々に利用範囲を拡大していくことが検討されています。

○「通知カード」と「個人番号カード」

住民票をお持ちの国民の皆様お一人お一人に12桁の番号が付番されるマイナンバーは、今月から紙の「通知カード」として順次、皆様の住民票の住所へ簡易書留で送付されます。郵便局の簡易書留のため、全世帯へ届くのは、11月末までかかるようです。

次に「通知カード」と一緒に同封されている「個人番号カード」の交付申請は来年の1月以降に手続きできるようになります。「個人番号カード」は写真やICチップが付いていますので、本人確認ができる身分証明書としても使用できます。（「通知カード」だけでは身分証明書にはなりません。）

○導入により期待される効果

内閣府のホームページから引用するとマイナンバーに期待される効果としては、大きく3つあります。1つめは、所得や他の行政サービスの受給状況を把握しやすくなるため、負担を不当に免れることや給付を不正に受けることを防止するとともに、本当に困っている方にきめ細かな支援を行えるようになります（公平・公正な社会の実現）。2つめは、添付書類の削減など、行政手続きが簡素化され、国民の負担が軽減されます。また、行政機関が持っている自分の情報を確認したり、行政機関から様々なサービスのお知らせを受け取ったりできるようになります（国民の利便性の

向上）。3つめは、行政機関や地方公共団体などで、様々な情報の照合、転記、入力などに要している時間や労力が大幅に削減されます。複数の業務の間での連携が進み、作業の重複などの無駄が削減されるようになります（行政の効率化）。

○個人情報の保護

このように国民の利便性が高まり、行政業務が効率化することが期待されます。一方、個人情報保護に関しては、横浜市会でも話題になりましたが、業務システムにおけるアクセス権限の管理などにより、特定個人情報を取り扱う職員を限定し、国から示されるガイドラインに沿ってしっかりとセキュリティ対策を進めるとのことです。横浜市へのインターネット経由の不正アクセスは、1日あたり約10万件確認されていますが、セキュリティ対策の実施により、現在まで情報漏洩やシステム停止などの被害は発生していません。今後も注視してまいります。

マイナンバー制度に関してはネガティブな意見も見受けられますが、どんな制度やシステムにも100%大丈夫と言うことはありません。不安があっても様々なサービスを楽しむチャンスを失ってしまいますので、セキュリティのレベルを上げ、安全対策に万全を期して安定的に運用できるよう関係機関に求めたいと思ひます。自民党横浜市議員出身でマイナンバー担当大臣補佐官の福田峰之代議士（神奈川8区）が言うように、この制度を安全に運用することにより、利便性が高まるだけでなく、諸外国から注目されるようなシステムを築き上げ、マイナンバー制度がIT大国として成長戦略の一つになるような夢を私も応援したいと思ひます。*1

話は変わりますが、先月は、安保法制について多くの報道がありました。自国の平和と安全をどのように維持していくのか、という国家として当たり前の問題に対して、多面的な情報をもとに、国民一人一人が客観的に、また冷静に考えていくべきなのではないかと感じました。今後は、国の政策等についても、このレポートで取り上げていきたいと思ひます。

最後になりましたが、食欲の秋、収穫の秋でもあります。地元の美味しい野菜や果物を食べて、元気にがんばって行きましょう！

横浜市議員 古川なおき

古川なおきプロフィール
県立希望ヶ丘高校・明治大学 卒業/明治大学公共政策大学院 修了
横浜銀行勤務後、衆議院議員秘書
平成7年4月 横浜市議員初当選(26才最年少)
現在 平成27年 政策・総務・財政委員会委員長
健康づくり・スポーツ推進特別委員会
自民党横浜市議員団所属/横浜市FCキャプテン
希望ヶ丘高校同窓会桜蔭会理事/横浜スキー協会会長
旭区サッカー協会顧問/旭区スポーツダンス協会顧問
旭区卓球協会顧問/旭区食品衛生協会顧問/旭区剣道連盟顧問

*1 インターネットで「マイナンバー、利活用」と検索し「マイナンバー利活用推進マップ」をご参照下さい。

☆政務調査員・塚本による報告 File7 台湾研修報告 (台北編)

この度、全国政策プレゼンコンテスト入賞を受け、自民党台湾訪問団の一員として台湾研修に行つて参りました。

私にとつての台湾は教科書で見聞きした範疇を超えないどこか漠然としたものでしたが、今回の訪台を通じて台湾に対するイメージが大きく変わりました。私が肌で感じた台湾の姿を2回に渡りご報告いたします。

☆台湾研修 (前編 台北編)

今回私は自民党公式訪問団の一員として台北だけでも馬英九総統はじめ立法委員長(国会議長)や与党国民党主席など台湾を代表する要人の方々とお会いさせていただきました。

馬総統との会談の中では、日台の相互貿易額が2014年は616億ドルに上り、台湾にとっては第3位、日本にとっては第4位の重要な貿易相手国であることや、馬英九政権下で漁業協定を含む25項目もの協定を締結したことが話されたほか、6月に台湾のテーマパークで発生した粉塵爆発の際に日本政府が6名の火傷専門医を含む救援チームを速やかに派遣したことに対して丁寧な謝意が述べられ、日台の関係の深さを感じることができました。

そんな台北訪問の中で、私が最も心打たれたのが台湾高座会の皆様とお会いしたことです。台湾高座会とは、昭和17年に高座海軍工廠(現在の大和駅北西付近)に航空機の製造、整備のため集められた13歳~20歳の元少年工の同窓組織で日本統治時代の台湾に生まれ戦中戦後の混乱期を生きぬかれた皆様です。少年工と言いますと強制徴用のようなことを思い浮かべる方もいるかも知れませんが、彼らは親の同意のもと台湾全土で行われた応募に自ら手を上げ厳しい選抜試験を通過したエリートたちで、延べ8,400人の少年がアメリカ制空権下の危険な海を渡り日本にやってきたそうです。

高座会の皆様からは、戦時中の日本と台湾の様子、ゼロ戦や紫電などの戦闘機整備に従事されていたことなどをお伺いしたほか、特攻機桜花を製造していた台湾最後の生き残りという方にもお会いし当時の心境を伺うことができました。中でも印象深かったのは日本統治下の学校教育についてのお話です。当時、台湾の小学校の週に1度、月曜日の1限目に『修身』の授業があり、そこでは年長者を敬うことや家族を大切にすることなどが教えられていたそうです。高座会の李会長は「日本人は厳しかったが温かさがあつた。われわれの人格は当時の教育によって形成され、日本統治下で教育を受けた世代は戦後も犯罪の発生率が低いのです」とお話になられました。



▲総統府前にて

懇談会の最後、訪問団を代表して私がどうしても気になっていたことを質問させていただきました。それは、現在の安全保障法制をめぐる日本の動きを、日本統治下を生き、戦争を体験された方々がどのように感じられているかということです。

李会長は一瞬ためらいながらも次のことをお話になりました。「1972年、日本が中華人民共和国との国交正常化と引き換えに中華民国(台湾)との国交を断交したとき、なぜ日本は我々を捨てたのかと恨んでいました。」その上で「いま日本が日本のことのみで専念するのではなく我々台湾と一緒に平和を考えようとしてくれていることを感じ心から歓迎している。」そうお話になられました。

台湾高座会の方々は決して特別に親日なのではなくおそらくそれこそが台湾なのだと思います。街中を歩いて日本語で挨拶をしてみると年配の方ほど笑顔で日本語の挨拶を返してくれました。公園には神社の跡と思われる鳥居がそのまま残されているところもありました。もし多くの台湾人が日本統治時代を悪とするならば、日本統治時代に築かれた鳥居や建築物、日本文化は破壊され消滅していたことでしょう。しかし、台湾には総統府をはじめ当時の日本の建築物や文化が根付き生き続けています。だからこそ東日本大震災の時は、台北市は真っ先にレスキュー隊を派遣してくれ、台湾全土ではアメリカと並び世界最大額の200億円を超える義捐金を送ってくれたのだと思います。

今回の訪台で感じたこと、それは友好国という言葉では言い尽くせない心通わす国がそこにあったということです。

次号では日本が輸出した新幹線に乗って行った高雄編をお送りいたします。



お気軽にご連絡ください。

FAX: 045-366-9700 / TEL: 391-4000

E-Mail: jm@furukawa2002.com

みなさまのご意見をお待ちしています!

古川なおき政務調査事務所

〒241-0825 横浜市旭区中希望が丘 199-1
希望ヶ丘駅より徒歩6分

